

未来を見据えた先見性

行動力が生んだもの

齋藤憲三先生の功績については今さら多くを語る必要はないかと思いますが、直に会っていた当時からスケールの大きさを感ずることができました。憲三先生は相手がお偉いさんでなくても、どこにでも足を運んでは意見を聴き「これはいいな!」となれば、全力で、そして即座に実行する行動力がありません。フェライトの発明者である東京工業大学教授・加藤与五郎博士からフェライトの特許を譲り受けたこと、お金がなかったから親交のあった鐘紡津田信吾社長にいきなり出向き、熱意を語り資金援助を受けたこと、これらが彼の行動力の最たるもので、昭和10年、東京電気化学工業株式会社、現TDK(株)を誕生させました。

すぐれた先見性

時代の流れと未来を読む力「先見性」は、彼のもともとの素質であり、特に優れている

科学する心と市の発展

たものだと思っています。100年、200年先ではなく、遠い未来である宇宙時代をも見据えていたのかもしれない。代議士だった憲三先生も科学技術庁の創設に貢献し、初代科学技術政務次官を務めていました。また、代議士をやめてからも、当時の内閣総理大臣だった佐藤栄作から科学技術庁顧問を頼まれ活躍していました。政治家の中で、科学技術の面では憲三先生の右に出るものはなく、ピカイチでした。科学技術ではドイツが一番と言われていた時代がありました。科学技術ではドイツが、近年では小惑星探査機「はやぶさ」の活躍などが目立っています。今ではドイツを越して日本が一番なのではと思っています。そこには、憲三先生の功績も大きいでしょう。

「創造によって文化、産業に貢献する」、これはTDK(株)の社是です。前述のとおり、

憲三先生はフェライトを発明したわけではありませんし、豊富な資金があったわけでもありません。しかし、行動力と熱意により人の心を動かし、先見性により時代の流れを読んで、それにより未来を創造することが出来たのではないのでしょうか。結果、当市

にも文化が生まれ、現在の盤石でたぐいまれなる産業の発展に繋がっていることは間違いありません。憲三先生の原点とも言える「科学する心」、これを今とこれからの若者たちが胸に秘め、にかほ市が更なる発展を遂げることを期待しています。



元仁賀保町長・にかほ市名誉市民(顕彰会前理事長)

巴 徳雄 氏

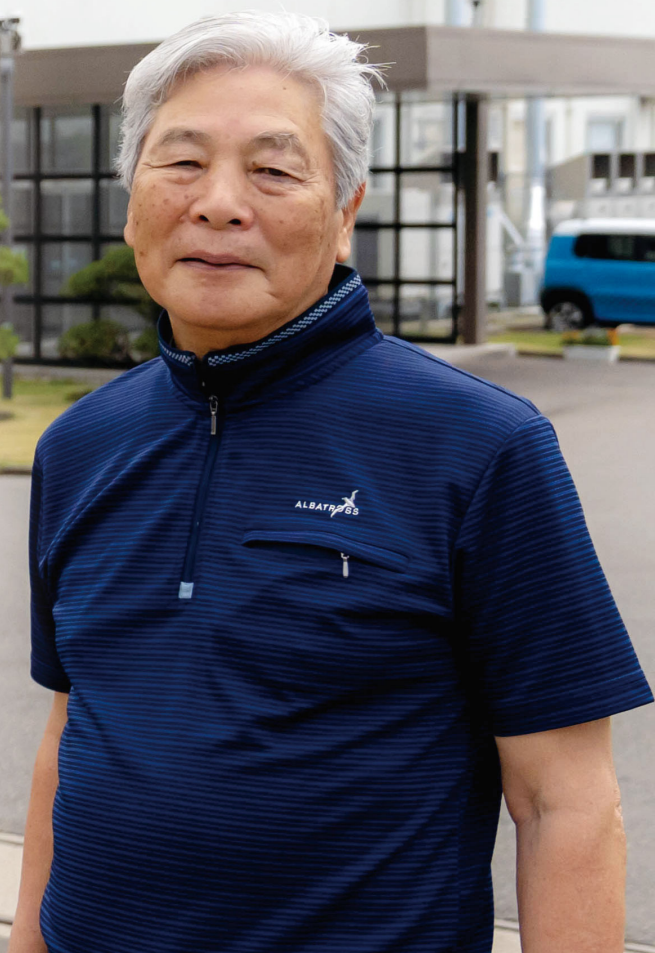
顕彰会の成り立ち

昭和46年、齋藤憲三先生の事跡を顕彰し、その遺志を後世に継ぐと、故・元理事長山崎貞一氏が中心となり、財団法人 齋藤憲三顕彰会を設立しました。そして、平成25年より、公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会となり、

科学する心の育成

科学技術の向上には少年時代から「科学する心」を育成することが大事である、という齋藤先生の考えのもと、県内の小・中・高・支援学校の生徒の皆さんによる科学分野研究に助成しています。若い

現在に至っています。



公益財団法人

齋藤憲三・山崎貞一顕彰会

理事長

齋藤 修一 氏

時代の流れの中で

齋藤、山崎の両先生はいまだにこの地域に大きな影響力があり、その多大な功績は、TDK(株)を核とした活力ある工業のまちを作り出し、世界

これからの顕彰会

若い時から「科学する心」を育み、故人を敬いその功績を顕彰することで後世に受け継いでいく、私たち顕彰会は今後も齋藤・山崎両先生の功績を発信して参りますので、ぜひ多くの方が当財団に興味と関心を持っていただくことを願っています。

に躍進する原動力となっています。しかし、時代の流れなのかもしれませんが、近年、両先生の存在と功績を知る人が少なくなってきたのではないかと危惧しています。顕彰会では、毎年、10月に「齋藤憲三・山崎貞一先生を偲ぶ会」を開催しています。例年、TDK・OBや地域の会社関係者、両先生の縁故者など100人を越す方々が法要に訪れていただいています。が、年々減少傾向にあり、行事参加者をどう維持していくのがこれからの課題となっています。

顕彰する心の大切さ